

北杜市立中学校再編整備検討委員会 会議録

1. 会議名：第8回北杜市立中学校再編整備検討委員会（令和6年度第1回会議）
2. 日 時：令和6年8月8日（木）午後7時00分～
3. 場 所：北杜市役所 北館3階 大会議室
4. 出席者：
（委 員）荒谷通孝・澤口純子・平野智哉・入江和成・岩下邦博・
小澤健二・渡部一司・宮崎克美・前田久美・林和枝・
小林明・清水徳生
（事務局）進藤政策推進課長・日向政策推進課長補佐
小澤教育部長・鷹左右教育総務課長・堀内教育指導監
齊藤学校教育担当リーダー・浅川総務担当リーダー・野口総務担当
5. 議事
（1）経過説明
（2）今後の予定
（3）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：5人

議 題

(1) 経過説明

(会 長) 事務局より、これまでの経過説明がありました。ただいまの説明に対して、ご質問等はございますか。

(委 員) まず1点目、少子化に備えてというところですが、市長の所信表明の中では、子どもの数を10年で2倍にするということがありました。魅力ある子育て環境を創出するということが謳われていたわけですがけれども、子どもの数を増やすということについて、どのように向き合っていくつもりなのか教えていただきたいです。

2点目ですが、学年3～4学級程度という数字がどこから出てきたのか、教えてください。

(事務局) まず1点目ですが、教育委員会といたしましては、現実には起こっている少子化への対応も考えていかなければならないということで、現実を踏まえた教育環境整備を研究しています。一方で、子どもの数を増やす施策は、当然いろんなことをやっています。例えば、給食の無償化や出産祝いといったことが行われています。それが実際にどの程度、少子化を抑制しているかということの評価は難しいですが、実際の子どもに対する教育環境を検討していかなければということで、検討を進めているところです。

学年3～4学級については、資料2の単独教科教員の配置を見ていただければと思いますが、3～4学級になりますと、全教科の先生が配置していただけるということで、子どもたちにとってより良い教育環境が整えられるということになります。

(委 員) まだまだ子どもを増やしていきたいという思いはあるということは、中学校を整備していく中で、子どもが増えた時の対応、対策も同時に進めていかないと、市の方針とは整合が取れないので、ぜひそのような方向で進めていただけたらと思います。

それと、私は別に統合に反対しているわけではないのですが、資料を読んでいて、形式的であり夢がないように感じました。できれば、課題があってそれに対応するためというよりは、より良い教育環境をつくっていくために、北杜市としてこんな素晴らしい教育ができるようにしていきたい、という夢を感じる内容にしていきたいと思いました。

(事務局) それにつきましては、現在、新設2校ということで方向性が示されていますので、その学校を具体的に計画していくなかで、夢のある学校をお示ししていきたいと考えています。

(委 員) 夢のあるというのはとても良いことだと思います。ちょっと大げさかもし

れませんが、日本一というか、他にはない学校を作りたいと思います。子どもが学校に行きたいなと思えるような、学校を作れるように私も頑張っていきたいと思いました。

それから、補足ですが、先ほどの説明の通り、教員数は学級数で決まります。決まるというのは、常勤の教員のことで朝から夕方まで勤務ができるわけですが、私の学校では音楽や技術の先生は非常勤であり、半日勤務等、放課後までいないことが多いです。実際には、子どもたちが質問をしたい時に先生がいないという状況もあります。先生がいないということではなくて非常勤という形をとっているということで、ご理解いただければと思います。

(会 長) 私も中学校で教鞭をとった経験があります。北杜市の中学校の現状を見ると、生徒の豊かな学びを保証することに苦心していると感じます。市内 8 中学校で、音楽の常勤の教員が配置されない学校は 4 校あります。他にも美術、技術、家庭課など、常勤の配置が厳しい中学校あるので、それらを解消して、より豊かな学びが提供できる環境を作ればと考えています。また、主要 5 教科であっても、今は 1 教科 1 人のような学校が、1 教科複数教員となり、お互いに高め合えるようになれば、生徒の学びがより豊かになるとも考えております。

少人数の学校では、きめ細かい学びができるとおっしゃる声も聞こえますが、市内の中学校で、全学年 1 学級の学校のいくつかは 1 学級 30 人を超えています。人数が多い学級は 38 人です。仮に人数が 2 倍、76 人になると、実は 3 学級となり 1 学級は 25 人程度になります。この場合、規模を大きくすることによって、よりきめ細かな指導が可能になります。ですから、規模が大きくなればきめ細かな指導ができないというのは、必ずしもそうではないと思います。

(委 員) 私たち、地域委員会は、以前、統合に関して市から諮問を受けました。他の中学校を見学しようということで、まず身延町に行きました。身延町では、4 つの学校を統合して 1 つにするという案が出ていて、具体的に進んでいました。全校生徒は、その時は 180 人くらいだったと思います。今の状況はどうかと聞いたら、いきいきと活動しているという状況でした。その時は、旧校舎に統合していましたが、現在では、新しい木造の素晴らしい校舎になっていたかと思えます。

次に、もう少し大きな学校をということで、校舎を新しくした韮崎東中を見に行きました。ちょうど総合体育大会の時期で子どもたちは部活を熱心にやっていて、非常に活気を感じました。挨拶もよくしてくれました。本日の資料を見ると、令和 16 年に北杜市内の中学生は 630 人くらい、今韮崎は東西それぞれ 300 人ずつくらいだったと思います。韮崎と同じくらいの規模の学校が北杜にも 2 つできるのかと、資料を見ながらそんなことも

感じました。

ぜひ、実際の学校を見て情報をどんどん入れていただいで、夢のある学校を作っていただきたいです。これまでは、小規模できめ細かく子どもを見るのが良いと考えている人も多かったと思いますが、統合した学校での子どもの様子を見ると統合した大きい学校にも良さがあるということに気づきます。その辺のところはいろんな工夫をして、進めていっていただけたらいいなと思っています。

(会 長) 今の市内の中学校でも、色々な特性を持った児童生徒、不登校児童生徒に対応するためのステップルーム仮称ひまわり等によって、小人数での指導が必要な場合への対応をしています。教職員が多くいれば、その時々、または児童生徒の特性に応じて、その指導の形態を変えるという工夫も十分できると思います。

では、その他にご質問等ありますか。では次の議事に移りたいと思います。

(2) 今後の予定

(委 員) 次回、ご報告いただきたいことがあります。

1つ目は、通学に関して、スクールバスに乗りたくても乗れない生徒さんが、現在どのくらいいるのか、新しい計画ではそれがどのようになるのか、知りたいです。

2つ目は、新しい中学校は避難所に指定されると思いますが、市の防災計画の中で8校が2校になった時にどのようになるのか、単にどこかに振りわけるということではなくて、災害に強い街づくりができないかということです。給食センターをゆくゆくは2センターに統合していきたいということがありますが、今この2センターに統合すると、設備としては足りないというふうに伺っております。この辺りも一緒に、せっかくインフラ整備するのであれば、一緒にやっていくことによって、費用も抑えられて、なおかつ効果的にできないかと思います。中学校が避難所になるのであれば、このセンターも避難時の焚き出し等ができるという設備を持っていく、生徒数だけではなくて、避難されてきた方にも対応できる設備にできないでしょうか。それから北杜市の場合は各町に温泉があります。このような既存施設との連携を積極的に考えられないでしょうか。そんなこともぜひ考えていただけたらと思います。

(事務局) スクールバスにつきましては、文部科学省では6キロ未満は徒歩及び自転車という目安があります。ですので、現在スクールバスを利用している方は限られていると思います。ただ、清里や増富等の通学距離が長いところもあります。改めて調査し、次回の委員会でお示ししたいと思います。また、防災についても他の部署とのすり合わせもありますので、協議をし

ながら、作業に進めて、検討できるようにしていきたいと思います。

(委員) 身延に行った時に、スクールバスの問題が出ていました。当時、通学に1時間くらいかかるということで地域の方はかなり心配していました。その後、新しい中学校は町の中心部にできており、通学の利便性も意識されているのかもしれませんが、北杜市においても、考慮していく必要はあると思いました。

それから、北杜市ができて20年になりますが、その果実が中学生に届いていないと感じます。子どもがどんどん減り、武川の生徒は50人を切っています。部活は厳しい状況で、先生たちの努力で合同チームをつくりなんとか大会に出るといった状況です。私は、早く子どもたちに北杜市合併の果実を届けたいと思っています。いつまでもあれはダメ、これはダメといていないで、もうやればいいと個人的には思っています。

(事務局) 先ほどのスクールバスのところですが、6キロ以内、1時間以内という目安がありますので、通学距離や時間が長くなれば当然、スクールバスを考えるとともに、公共交通も活用しながら通学の足を確保していきたいと考えています。

(委員) 今までの議論の中で、例えば学級数がいくつあれば先生が何人配置されるというのは、北杜市とか山梨県とかに限った話ではなくて、全国的にそういうルールになっているという話でしかないと思います。

地域の特色を活かすとか、夢のある学校を作るという話も出ているので、具体的にこの場所だとかこういう施設と連携できる、こういう自然環境を活かせるといったところも、調査対象に含めていただくと良いと思います。

(会長) ありがとうございます。まさに教育委員会の中だけで考えるのではなく、各部署で連携する中で、北杜市の宝である子どもたちにどのような教育を行うかというのは、教育行政のみならず、市の行政全体で考えるという視点をいただいたと思います。

私は、市内の小学校の統合の時に、管理職として学校を閉じて、新しい学校を開きました。その時、最も心配したのは子どもたちの通学のことでした。市内には狭い道も多くある中で、路線やバス停を検討していきました。関係部署が連携しないと、夢のある学校の開校までたどりつきません。中学生、保護者、地域等、すべての方の意見を聞きながら進めることにより、夢の学校を実現していきたいと思います。